

プログラム修正方法 — クライアントツール開発担当者向け

2007 年 1 月 23 日

目次

1	Eclipse 上でのデバッグ方法	1
1.1	darumaviewer と schemaeditor のデバッグ	1
1.2	クライアントコマンドのデバッグ	1
2	コミットと廃棄	2
2.1	プログラムのコミット	2
2.2	チームで同時作業の場合のプログラムのコミット	2
2.3	ローカルで行なった変更の廃棄	2
3	プログラム、実行ファイルのリリース方法	3
3.1	schemaeditor のリリース方法	3
3.2	クライアントコマンドツールのリリース方法	3
3.3	darumaviewer のリリース方法	3

1 Eclipse 上でのデバッグ方法

1.1 darumaviewer と schemaeditor のデバッグ

1. 「実行」メニューより、[構成およびデバッグ] を選択
2. 左の起動構成から eclipse を選択
3. eclipse アプリケーションの「メイン」タブを選択し、[プロダクトの実行] でデバッグするツールを設定
4. 「適用」ボタンで設定を保存
5. 「デバッグ」ボタンを押して デバッグ実行

1.2 クライアントコマンドのデバッグ

1. 「Java」パースペクティブの「パッケージエクスプローラ」ビューから application.startup.Start2 クラスを右クリックして [デバッグ] [構成およびデバッグ] を選択
2. デバッグダイアログ「引数」タブを選択し 下記のように設定

a. プログラム引数：コマンドライン実行時パラメータ

b. VM引数

Windows の場合 >

```
-Dapplication.home=C:/XXX/ex.aist.daruma.client-Dsystem.properties.xml  
=C:/XXX/ex.aist.daruma.client/etc/YYY/system.properties.xml
```

Linux の場合 >

```
-Dapplication.home=/XXX/ex.aist.daruma.client-Dsystem.properties.xml  
=/XXX/ex.aist.daruma.client/etc/YYY/system.properties.xml
```

XXX はプログラム格納フォルダにより異なるため、各自のPCの設定にあわせて設定

YYY はコマンドによって system.properties.xml のフォルダ名が異なるため、適切なフォルダを設定

3. 「適用」ボタンで設定を保存

4. 「デバッグ」ボタンを押して デバッグ実行

2 コミットと廃棄

2.1 プログラムのコミット

1. [チーム] の [リポジトリ同期化] を選択

2. [Synchronize] パースペクティブが表示され、ここでローカルとリポジトリの状態を確認したりコミットや更新を行う

表示モードの説明

- Incoming/Outgoing : ローカル、リポジトリで変更されたファイルが表示される
- Incoming : ローカルで変更されたファイルが表示される
- Outgoing : リポジトリで変更されたファイルが表示される
- Conflicts : 衝突のあるファイルが表示される

2.2 チームで同時作業の場合のプログラムのコミット

- [Synchronize] パースペクティブからコミット、更新

2.3 ローカルで行なった変更の廃棄

- [チーム] [リポジトリから復元] を選択

3 プログラム、実行ファイルのリリース方法

3.1 schemaeditor のリリース方法

Windows 上と linux 上各々で、下記の作業を行う必要がある。これは、schemaeditor と darumaviewer では Eclipse platform を使用しているため、ターゲット OS 上で Eclipse を使ってパッケージを作成することが必要なためである。

1. ファイルを修正
2. schemaeditor.product または、schemaeditor.linux.product を開いて、エクスポートウィザードを実行してエクスポートを行う。(eclipse のバージョンが違うときには、構成のページでパッケージを設定しなおす。)
3. release.xml 又は release.linux.xml を右クリックして [実行] の [Ant ビルド] を選択すると、release フォルダにビルドされたものが zip or tar ファイルとして作成される。
 - zip または tar ファイルには、ソースも含まれる。
 - コミットするものは以下のとおり:
 - .java ファイル、.properties ファイル、Windows の場合は zip ファイル、Linux の場合は tar.gz ファイル

3.2 クライアントコマンドツールのリリース方法

1. ファイルを修正
2. build.xml を右クリックして、[実行] の [Ant ビルド] を選択すると、release フォルダにビルドされたものがすべて格納される。
コミットするものは以下のとおり:
.java ファイル、.properties ファイル、release フォルダのファイル(jar を含む)(上記以外の.class ファイルや log ファイルはコミットしない。)

3.3 darumaviewer のリリース方法

Windows 上と linux 上各々で、下記の作業を行う必要がある。これは、schemaeditor と darumaviewer では Eclipse platform を使用しているため、ターゲット OS 上で Eclipse を使ってパッケージを作成することが必要なためである。

1. ファイルを修正
2. darumaviewer.product または、darumaviewer.linux.product を開いて、エクスポートウィザードを実行してエクスポートを行う。(eclipse のバージョンが違うときには、構成のページでパッケージを設定しなおす。)
3. release.xml はないので、手動にて zip または tar ファイルを作成し、コミットを行なう。
zip は、アプリケーションを使用して作成、tar は以下のコマンドにて作成できる。

```
tar cvzf darumaviewer.tar.gz ./darumaviewer
```

コミットするのものは以下のとおり:

.java ファイル、.properties ファイル、Windows の場合は zip ファイル、Linux の場合は tar.gz ファイル

java ファイルの修正の場合は、修正したファイルによるが、jar ファイルが 更新される可能性があるので、更新の場合にはコミットする。